

博士論文の審査結果の要旨

専攻	保健医療学	分野	福祉支援工学
学籍番号	17S3026	院生氏名	小島みさお
通学キャンパス	東京赤坂キャンパス		
論文題目	地域在住高齢者の軽度尿失禁の実態と 相談意向に関する調査研究		
審査結果(枠で囲む)	合格		不合格
<p><審査結果の要旨></p> <p>1. 主論文について</p> <p>1) 研究の概論</p> <p>本研究は、地域在住高齢者の不意に少量漏れてしまう軽度尿失禁について、その実態を調査、分析し、尿失禁経験率は65・3%に上り、男性の75%は対応を何もしておらず、逆に女性は尿失禁専用パッドの使用率は高く、性差が見られた。また、尿失禁の相談経験は2割と少ないが、相談意向は6割に達しており、今後、地域包括支援センターを中心とした多職種連携による地域相談拠点の整備などが急務になっている。</p> <p>2) 研究方法</p> <p>研究デザインは無記名自記式質問紙を用いた横断研究(調査1)と半構造化面接法による質的研究(調査2)を実施した。調査1は区や市等の主催や協力による健康に関する講座の会場で配布回収した。調査2は研究者が指定場所へ訪問し、10名にインタビューし、録音、逐語録を作成した。二つの調査により軽度尿失禁の実態と相談意向との関連を束ねて命名する作業を行い、最後に、その関連性を図式化した。</p> <p>3) 知見の新規性と意義</p> <p>本研究の新規性は、先行研究を踏まえたうえで、地域在住高齢者の軽度尿失禁の実態を明らかにし、相談意向が非常に高いにもかかわらず、実際の経験相談が低いことが判明したことにある。本研究の意義は尿失禁の個別相談支援が必要であり、フレイルや介護予防に取り組む地域包括支援センターを中心とした多職種連携の重要性を示唆しており、高く評価できる。</p> <p>4) 審査経過について</p> <p>審査会は2回開催。初会審査で3人の審査委員より研究結果と考察に関しての口頭試問が行われ、これらの試問について適切に回答した。各委員から新規性、統計方法についての質問、指摘事項があったが、2回目の審査及び書面回答で修正され、適切に対応済みであることが確認された。</p> <p>5) 合否結果</p> <p>以上の結果から、審査会の審査員全員は本論文が著者に博士(保健医療学)の学位を授与するに十分な価値があるものと認めた。</p>			
論文審査担当者	主査	水卷中正	
	副査	只浦寛子	
	副査	小平めぐみ	